

東日本大震災津波の経験に基づき、
引き続き復興に取り組みながら、
お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて



はじめに

1 計画策定の趣旨・役割

- ・ 岩手県では、昭和 39 年（1964 年）に「岩手県総合開発計画」を策定して以来、平成 21 年（2009 年）に策定した「いわて県民計画」に至るまで 9 次にわたり、切れ目なく総合計画を策定し、長期的な展望のもとで県政を推進してきました。
- ・ 総合計画は、県の政策推進の方向性や具体的な取組を示す最上位の計画であり、この総合計画のもとで、各分野の個別計画やビジョンを策定しているほか、毎年度の予算編成なども行っています。
- ・ 今般、「いわて県民計画」が、平成 30 年度（2018 年度）で計画期間終了となることから、社会経済情勢の変化など、時代の潮流を見据えながら、新たな「いわて県民計画（2019～2028）」を策定するものです。
- ・ この計画は、行政だけではなく、県民、企業、NPO などのあらゆる主体が、岩手県の将来像などを共有し、それぞれの主体が自ら取組を進めていくためのビジョンともなるものです。

2 計画の期間

2019 年度から 2028 年度までの 10 年間の計画とします。

計画期間及び構成のイメージ

年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
	長期ビジョン(10年間)									
アクションプラン	復興推進プラン(4年間)				第2期以降の「復興推進プラン」の取り扱いは、今後の復興の状況を踏まえながら検討					
	政策推進プラン(4年間)				政策推進プラン(4年間)		政策推進プラン(2年間)		政策推進プラン(2年間)	
	地域振興プラン(4年間)				地域振興プラン(4年間)		地域振興プラン(2年間)		地域振興プラン(2年間)	
	行政経営プラン(4年間)				行政経営プラン(4年間)		行政経営プラン(2年間)		行政経営プラン(2年間)	

3 計画の構成

10年間の「長期ビジョン」と、マニフェスト・サイクル^{*1}を考慮した「アクションプラン」による構成とします。

(1) 長期ビジョン

長期的な岩手県の将来を展望し、県民みんなで目指す将来像と、その実現に向けて取り組む政策の基本方向を明らかにするものです。

(2) アクションプラン

「長期ビジョン」の実効性を確保するために、重点的・優先的に取り組むべき政策や、その具体的な推進方策を明らかにする「復興推進プラン」、「政策推進プラン」、「地域振興プラン」、「行政経営プラン」を策定します。



用語解説

*1 マニフェスト・サイクル

有権者が望む政策を直接、行政に反映していくため、明確な目標を掲げた選挙公約である「マニフェスト」を基本に、行政計画を策定・実施し、その政策の評価を踏まえ、新たなマニフェストを作成し、有権者の審判を受ける一連の流れ。

4 計画推進の考え方

(1) 政策評価に基づく「政策推進プラン」の進捗管理

- ・ 第5章に示す10の政策分野に基づき、重点的・優先的に取り組む政策などを具体的に示す「政策推進プラン」を策定します。
- ・ この「政策推進プラン」の進捗管理に当たっては、政策評価の仕組みに基づくマネジメントサイクル^{*2}を確実に機能させ、取組の成果の評価結果を県民と共有し、計画の実効性を高め、目指す将来像に向けた取組を着実に推進していきます。



用語解説

*2 マネジメントサイクル

目的を達成するために多面的な計画を策定し、計画どおりに実行できたのかを評価し、次期行動計画へと結び付ける一連の管理システム。

(2) 多様な主体が参画した地域づくり

- ・ 「いわて県民計画」では、県民、企業、NPO、市町村や県など、地域社会を構成するあらゆる主体の総力を結集し、地域の歴史的・文化的・経済的・人的資源を最大限に活用しながら、地域の個性や特色を生かすことにより、地域の価値を高めていく取組を進め

いわて県民計画 (2019~2028)

長期ビジョン

東日本大震災津波の経験に基づき、
引き続き復興に取り組みながら、
お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて



「いわて県民計画（2019～2028）」長期ビジョンの構成

第1章 理念

県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる
地域社会の実現を目指し、幸福を守り育てるための取組を進める

みんなで行動

社会的包摂の観点
(ソーシャル・インクルージョン)

第2章 岩手は今

現状認識・展望

世界・日本・岩手の変化と展望、岩手の可能性（強み・弱み等）

第3章 基本目標

東日本大震災津波の経験に基づき、
引き続き復興に取り組みながら、
お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて

第4章 復興推進の 基本方向

復興の目指す姿

いのちを守り 海と大地と共に生きる ふるさと岩手・三陸の創造

復興の推進に当たって重視する視点

参画

交流

連携

「より良い復興～4本の柱～」と取組方向

①安全の確保

②暮らしの再建

③なりわいの再生

④未来のための伝承・発信

第5章 政策推進の 基本方向

10の政策分野

①健康・余暇

②家族・子育て

③教育

④居住環境・コミュニティ

⑤安全

⑥仕事・収入

⑦歴史・文化

⑧自然環境

⑨社会基盤

⑩参画

第6章 新しい時代を 切り拓く プロジェクト

11のプロジェクト

①ILCプロジェクト

②北上川バレープロジェクト

③三陸防災復興ゾーンプロジェクト

④北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト

⑤活力ある小集落実現プロジェクト

⑥農林水産業高度化推進プロジェクト

⑦健幸づくりプロジェクト

⑧学びの改革プロジェクト

⑨文化・スポーツレガシープロジェクト

⑩水素利活用推進プロジェクト

⑪人交密度向上プロジェクト

第7章 地域振興の 展開方向

4広域振興圏の振興

県央

県南

沿岸

県北

県北・沿岸圏域及び過疎地域等の振興

広域振興圏や県の区域を越えた広域的な連携の強化

第8章 行政経営の 基本姿勢

「4本の柱」と取組方向

①地域意識に根ざした県民本位の行政経営の推進

②高度な行政経営を支える職員的能力向上

③効率的な業務遂行やワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境の実現

④戦略的で実効性のあるマネジメント改革の推進

もくじ

第5章 政策推進の基本方向 59

1 政策推進の基本的な考え方	60
2 10の政策分野の取組方向	61
(1) 健康・余暇	61
(2) 家族・子育て	65
(3) 教育	67
(4) 居住環境・コミュニティ	72
(5) 安全	75
(6) 仕事・収入	77
(7) 歴史・文化	83
(8) 自然環境	85
(9) 社会基盤	87
(10) 参画	90
3 主要な指標（いわて幸福関連指標・長期ビジョン版）	92

第6章 新しい時代を切り拓くプロジェクト 93

1 ILCプロジェクト	94
2 北上川バレープロジェクト	98
3 三陸防災復興ゾーンプロジェクト	102
4 北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト	106
5 活力ある小集落实現プロジェクト	110
6 農林水産業高度化推進プロジェクト	114
7 健幸づくりプロジェクト	118
8 学びの改革プロジェクト	121
9 文化・スポーツレガシープロジェクト	125
10 水素利活用推進プロジェクト	128
11 人交密度向上プロジェクト	131

第7章 地域振興の展開方向 135

1 地域振興の基本的な考え方	136
2 4広域振興圏の振興	136

- ・ 女性の立場からの、職場における労働環境や子育てにやさしい環境の整備に向けた提言など
- ・ 高齢者の知識や経験を生かした子どもを守る地域活動への参画など
- ・ 障がい者の自らの経験を生かした共生への提言など

【企業】

- 仕事と生活・子育てが両立できる職場環境の整備、地域における子育て支援活動への支援などが期待されます。
- 社員の出会いや結婚を支援する機運の醸成、環境づくりが期待されます。
- 地域における青少年健全育成活動や動物愛護活動等への支援などが期待されます。

【NPO】

- 地域における結婚や子育て支援活動、子どもの学習・体験活動への参画、仕事と生活・子育ての両立に向けたアイデアの提供などが期待されます。
- 青少年健全育成活動のサポート、災害時も含めた動物愛護活動などが期待されます。

【関係団体・事業者・学校】

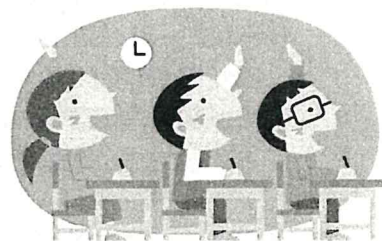
- 家庭・地域と連携・協働した学校運営の展開、企業に対する仕事と生活・子育てが両立できる職場環境の整備に向けた助言、地域における子育て支援活動や子どもの学習・体験活動への参画などが期待されます。
- 青少年健全育成活動のサポート、災害時も含めた動物愛護活動などが期待されます。

【市町村】

- 出会い・結婚施策の実施や母子保健の充実、子育て支援、保育サービスの充実などが期待されます。
- 学校・家庭・地域が連携して子どもを守り育てる仕組みづくり、青少年健全育成や働き方改革の取組の促進、動物愛護の普及啓発活動などが期待されます。

(3) 教育

～学びや人づくりによって、将来に向かって
可能性を伸ばし、
自分の夢を実現できる岩手～



主要な指標

意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合、
自己肯定感を持つ児童生徒の割合、
体力・運動能力が標準以上の児童生徒の割合、高卒者の県内就職率

学校教育の充実や国際交流、文化・スポーツ、産業などの様々な分野での人づくりを進めること

ら卒業後までの一貫した支援を充実します。

- イ 全ての児童生徒が地域の学校で共に学べるよう、通級による指導^{*73}や特別支援学級での指導の充実などにより、特別支援教育の多様なニーズに対応します。
- ウ 児童生徒一人ひとりの状況に応じた指導、支援を充実するため、専門人材の活用や全校種での研修などにより、教職員の専門性を向上します。

⑤ いじめ問題などに適切に対応し、一人ひとりがお互いを尊重する学校をつくりますー

- ア いじめ防止対策の徹底に加え、いじめ事案に迅速に対応できるよう、児童生徒の主体的な防止活動を促進するとともに、いじめの積極的な認知や組織的な指導体制の充実を進めます。
- イ 不登校の未然防止や学校復帰に向けた適切な支援、援助を行うことができるよう、児童生徒に寄り添った教育相談体制の充実により、不登校対策を進めます。
- ウ インターネットの正しい使い方などを身に付けるため、情報モラル教育の推進や関係機関などとの連携により、児童生徒の健全育成に向けた対策を推進します。

⑥ 児童生徒が安全に学ぶことができる教育環境の整備や教職員の資質の向上を進めます

- ア 児童生徒が安心して学べる環境を整備するため、学校安全計画の推進や、学校・家庭・地域・関係機関の連携により、学校安全環境の確保を図ります。
- イ 児童生徒が安全な環境で学ぶことができるよう、計画的な老朽化対策や、新たな教育ニーズへの対応などにより、学校施設・設備を充実します。
- ウ 学校運営の活性化を図るため、コミュニティ・スクール^{*74}等の仕組みを活用した学校マネジメントの充実・強化などにより、組織的な教育活動を推進します。
- エ 学校の魅力を高めるよう、より良い教育環境を整備するとともに、地域社会や地域の産業界などとの交流・連携を進めます。
- オ 不登校児童生徒や外国人居住者の増加等、社会環境の変化に対応するため、適応指導教室^{*75}や外国人子弟の学びの場など、多様なニーズに対応した教育機会を提供します。
- カ 質の高い教育が行えるよう、多様な評価に基づく採用選考試験や教員等育成指標の活用などにより、教育への情熱と高い志を持つ有為な教職員の確保と資質の向上を進めます。



用語解説

*73 通級による指導

小中学校・義務教育学校及び高等学校の通常の学級に在籍している支援の必要な児童生徒に対して、個別に教育的ニーズに応じた指導を週に数時間程度行う特別支援教育の一つの形態。

*74 コミュニティ・スクール

学校運営協議会を設置する学校のことで、学校と保護者や地域の人々がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることにより、連携・協働しながら子供たちの豊かな成長を支える仕組み。

*75 適応指導教室

市町村の教育委員会が、不登校等の児童生徒に対し、学校復帰を支援する等の目的のために設置している教室。

⑦ 多様なニーズに応じた特色ある私学教育を充実しますー

- ア 多様な教育ニーズに対応するため、私立学校運営費補助などにより、各私立学校が定める中期計画や建学の精神に基づく特色ある教育活動を支援します。
- イ 若年者の離職防止や地元定着を促進するため、私立学校運営費補助などにより、私立学校における職業教育や人材育成



いわて県民計画 (2019~2028)

東日本大震災津波の経験に基づき、
引き続き復興に取り組みながら、
お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて



政策推進プラン
(2019年度~2022年度)



岩手県

目次

はじめに	1
I 健康・余暇	5
1 生涯にわたり心身ともに健やかに生活できる環境をつくります	7
2 必要に応じた医療を受けることができる体制を充実します	12
3 介護や支援が必要になっても、 住み慣れた地域で安心して生活できる環境をつくります	17
4 幅広い分野の文化芸術に親しみ、 生涯を通じてスポーツを楽しむ機会を広げます	25
5 生涯を通じて学び続けられる場をつくります	31
II 家族・子育て	37
6 安心して子どもを生み育てられる環境をつくります	39
7 地域やコミュニティにおいて、 学校と家庭、住民が協働して子どもの育ちと学びを支えます	47
8 健全で、自立した青少年を育成します	51
9 仕事と生活を両立できる環境をつくります	54
10 動物のいのちを大切に作る社会をつくります	57
III 教育	59
11 【知育】児童生徒の確かな学力を育みます	61
12 【徳育】児童生徒の豊かな人間性と社会性を育みます	66
13 【体育】児童生徒の健やかな体を育みます	70
14 共に学び、共に育つ特別支援教育を進めます	75
15 いじめ問題などに適切に対応し、 一人ひとりがお互いを尊重する学校をつくります	80
16 児童生徒が安全に学ぶことができる 教育環境の整備や教職員の資質の向上を進めます	84
17 多様なニーズに応じた特色ある私学教育を充実します	90
18 地域に貢献する人材を育てます	92
19 文化芸術・スポーツを担う人材を育てます	101
20 高等教育機関と連携した地域づくり・人づくりを進めます	106
IV 居住環境・コミュニティ	109
21 快適で豊かな暮らしを支える生活環境をつくります	111
22 地域の暮らしを支える公共交通を守ります	115
23 つながりや活力を感じられる地域コミュニティを守り育てます	118
24 岩手で暮らす魅力を高め、移住・定住を促進します	122
25 海外の多様な文化を理解し、共に生活できる地域づくりを進めます	125
26 文化芸術・スポーツを生かした地域をつくります	128

Ⅲ 教育

15 いじめ問題などに適切に対応し、一人ひとりが お互いを尊重する学校をつくります

(基本方向)

全ての児童生徒が安心して学校生活を送り、様々な活動に取り組むことができるよう、「岩手県いじめ防止等のための基本的な方針」に基づくいじめ防止対策や、組織的な指導体制の充実により、いじめ事案への適切な対応に取り組みます。

また、不登校などの未然防止、早期発見・適切な対応を推進するため、教育相談体制の一層の充実や関係機関と連携した教育機会の提供等により、児童生徒に寄り添った不登校対策を推進します。

さらに、児童生徒が情報化社会等において健全な生活を送るため、情報モラル教育の推進や保護者への啓発活動などにより、児童生徒が適切な情報活用に関する能力や規範意識を身に付ける取組を推進します。

現状と課題

- ・ いじめを一因とする自殺事案の発生を契機として、学校におけるいじめ防止対策に関する県民の意識が一層高まるとともに、「いじめ防止対策推進法」の趣旨を踏まえたいじめ防止などの更なる取組の推進が求められています。
- ・ 本県では、いじめはいけないことだと思う児童生徒の割合が増加してきており、更にその割合を高めていく必要があります。
- ・ 学校における教育相談体制の充実などを背景に、小・中学校等における不登校児童生徒の出現率は全国水準より低く推移していますが、引き続き、未然防止や、発生した場合の早期発見・適切な対応に一層取り組む必要があります。
- ・ スマートフォンなどが子どもたちにも普及する中で、SNS¹上での誹謗中傷などのいじめやネット犯罪等に巻き込まれる危険が深刻化していることを踏まえ、情報モラルに関する指導が一層重要となっています。

県が取り組む具体的な推進方策（工程表）

① いじめ防止対策の推進といじめ事案への適切な対応

- ・ 各学校がいじめ問題に対して組織的に対応していくため、「岩手県いじめ防止等のための基本的な方針」に基づく取組を徹底します。
- ・ 自他の生命を大切にし、他者の人権を尊重する心を育成するため、いじめについて考える討論会などの児童生徒による主体的な活動の促進とともに、思いやりの心と社会性を育成する道徳教育や人権教育の充実を図ります。

¹ SNS：：Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の略。インターネットを介して人間関係を構築できるスマートフォン・パソコン用の Web サービスの総称。

- ・ いじめの積極的な認知やいじめが生じた際の迅速な対応を行うため、児童生徒に対する定期的なアンケート調査や個人面談の実施の徹底を図ります。
- ・ 教職員の生徒指導や教育相談の資質向上を図るため、「いわて「いじめ問題」防止・対応マニュアル」を活用した研修を実施します。

② 児童生徒に寄り添った教育相談体制の充実等による、不登校対策の推進

- ・ 学校の教育相談体制の充実を図るため、学校心理士の資格を持つ教育相談コーディネーターを養成するとともに、教員の資質を高めるための研修を実施します。
- ・ 学校生活に不安や悩みを抱えている児童生徒の状況に応じた専門的見地からの支援を図るため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、24時間子供ＳＯＳダイヤル相談員等を配置します。
- ・ 多様な教育ニーズに対応していくため、市町村が設置している適応指導教室²や民間等で運営しているフリースクール³等と連携し、不登校児童生徒への教育機会の提供に取り組みます。

③ 児童生徒の健全育成に向けた対策の推進

- ・ 児童生徒が、情報化社会において適切に行動する考え方や態度を身に付ける指導を行うため、教員研修を実施し、情報モラル教育に取り組みます。
- ・ 児童生徒を性的被害や有害情報から守るため、スマートフォンなどの情報端末のフィルタリング⁴やインターネット利用のルールに関する普及啓発活動を、保護者や地域、関係団体等と連携して取り組みます。
- ・ 児童生徒の心身の保護を図るため、喫煙・飲酒や薬物乱用、性感染症などを防止するための講習会等の実施や保護者・地域への継続的な普及啓発に取り組みます。

県が取り組む具体的な推進方策						工程表（４年間を中心とした取組）				
						～2018	2019	2020	2021	2022
① いじめ防止対策の推進といじめ事案への適切な対処						学校の取組状況把握	「岩手県いじめ防止等のための基本的な方針」に基づく取組の徹底			
						各学校における特別活動や道徳教育・人権教育の推進				
						授業改善及び児童生徒の主体的な活動に関する優良事例の普及				
目標										
・ いじめはいけないと思う児童生徒の割合（％）										
現状値	2019	2020	2021	2022						
小89.1	91.8	94.5	97.2	100						
中84.6	88.4	92.2	96.1	100						
現状値は2018年の値										
・ 認知したいじめが解消した割合（％）										
現状値	2019	2020	2021	2022						
－	100	100	100	100						
						いじめ防止マニュアルの周知	いじめ防止マニュアルの活用による指導体制の充実			
						いじめ防止マニュアルを活用した研修の実施				
						学校行事を通じた児童生徒の話し合いの機会の拡充				

² 適応指導教室：市町村の教育委員会が、不登校等の児童生徒に対し、学校復帰を支援する等の目的のために設置している教室。

³ フリースクール：不登校の子どもを受け入れている民間の施設等。

⁴ フィルタリング：主に子どもを対象として、インターネット上にあるサイトの閲覧を制限するサービス。

県が取り組む具体的な推進方策					工程表（４年間を中心とした取組）				
					～2018	2019	2020	2021	2022
② 児童生徒に寄り添った教育相談体制の充実等による、不登校対策の推進									
目標									
・学校が楽しいと思う（学校に満足している）児童生徒の割合（％）									
現状値	2019	2020	2021	2022					
小88	89	90	90	91					
中88	89	90	90	91					
高87	88	89	89	90					
現状値は2018年の値									

県以外の主体に期待される行動

（家庭）

- ・学校・地域と連携したいじめ防止の取組
- ・いじめの積極的認知等のための子どもとのコミュニケーションの充実
- ・学校やフリースクール等との情報共有
- ・情報端末のフィルタリングや利用にかかるルール作り

（地域）

- ・学校・家庭と連携したいじめ防止の取組への協力
- ・道徳に関する講演会などの学校行事への協力
- ・地域内の巡回等による見守り活動
- ・講演会の開催などによる情報端末利用にかかるルール作りへの支援

（関係団体等）

- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの学校派遣の協力や資質向上の取組
- ・フリースクールの設置・運営等と、学校や適応指導教室との連携
- ・情報端末のフィルタリングやインターネット利用のルールに関する啓発活動

(学校)

- ・組織的ないじめ防止や不登校の未然防止等の取組
- ・道徳の時間を要とした学校全体での道徳教育の充実
- ・児童会・生徒会活動等の主体的ないじめ防止の活動の実施
- ・いじめに関する積極的認知のためのアンケート調査・個人面談の実施
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用による教育相談体制の充実
- ・家庭・地域とのいじめに関する情報共有・連携
- ・家庭や適応指導教室・フリースクール等との連携による不登校への対応
- ・SNSなどの適切な活用などの情報モラル教育の実施と保護者への啓発

(市町村教育委員会)

- ・学校における組織的ないじめ防止や不登校の未然防止等の取組への指導・支援
- ・指導主事の学校訪問等による道徳教育や教育相談体制に関する指導・助言・啓発
- ・適応指導教室の設置・運営